

福島2号機揺れで損傷か

専門家解析

震災4日目 蒸気操作 外部で線量急増

東京電力福島第1原 門家がまとめた。

発2号機で、原子炉格 東電は、地震による

納容器下部の圧力抑制 プールが地震の揺れで

早期に損傷したか、劣 源喪失が事故原因との

化した可能性が高いと 立場。揺れで損傷して

する解析結果を19日ま いれば、福島第1と同

様に従来の耐震基準が

適用されている他の原 田辺文也所長。

発への影響も必至だ。 島第1原発では地震3

・検証委員会の調査結 日後の3月14日午後9

果が注目される。 時半すぎ、原発敷地境

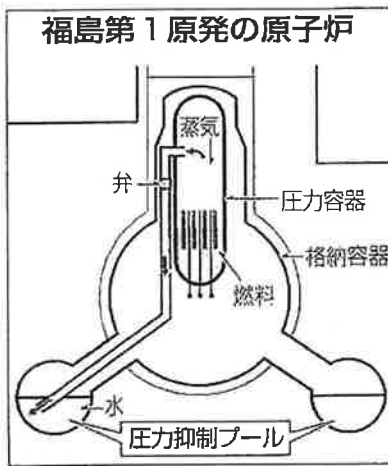
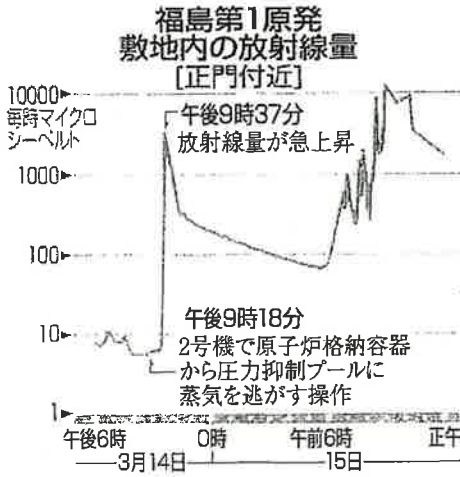
解析したのは日本原 界の放射線量が急上昇

子力研究開発機構の元 した。2号機では直前

研究者で、社会技術シ の同9時18分、圧力が

スチーム安全研究所(茨 高くなった原子炉圧力

城県ひたちなか市)の 容器から放射性物質を



含む蒸気を圧力抑制プールの逃がす操作をしてきた。この前後に他号機では放射性物質放出につながる出来事や操作は見当たらなかった。

2号機は当初、津波による電源喪失で溶け落ちた燃料が格納容器に達し、15日朝、その熱と圧力によって圧力抑制プールが破損したと考えられていた。しかし、それに先立つ14日の夜、圧力容器から

蒸気を抜くという想定内の作業をしただけで周辺の放射線量が高まったことは、早い段階で既に同プールに損傷があった可能性をうかがわせる。

田辺氏は「圧力抑制プールには接合部や保守点検で人が入るため、開口部など、弱い部分がある。地震の揺れで破損したか、少量の蒸気境界の線量の上昇原因についても調査中。ただ、地震後の操作に耐えられなかった可能性を調べるべきだ」としている。

東電は「圧力抑制プールの含む格納容器の

傷が疑われたのは、原子炉格納容器と一体化して閉じ込め機能を担う圧力抑制プール。ここに高圧の蒸気を送り込まれた直後に、周辺ではまれな地震多発地帯での立地を考えると、東電や経済産業省原子力安全・保安院が地震による損傷を否定する姿勢は理解できない。安全に対して後ろ向きと言われている。安全側には、より安全側に立った徹底的な解析が望まれる。

今回の解析結果で損

性は最大限に考える必要

他原発安全基準影響も

東京電力福島第1原発事

傷が疑われたのは、原

こ20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本

この20年ほど、日本